

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 10 号

平成30年 9月10日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

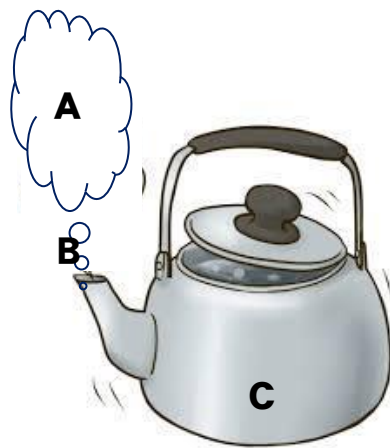
発行責任者：校長 高崎則行

やかんの中が沸騰しているから湯気が立つ

優れた実績が多くなるのは学校全体で頑張っている証拠

右の図のAは湯気です。Cはやかん本体です。やかんの注ぎ口からは蒸気が勢いよく噴き出ているはずですが、透明で目に見えません。この部分がBです。大会やコンクールでの活躍が多くなって賞状を伝達するとき、私はいつもこのような『やかん』の姿を思い浮かべます。

やかんが下から熱せられ、中の水が対流し沸騰すると、蒸気が注ぎ口から噴き出します。（ときには、ふたを持ち上げることもあります。）やかんの中が沸騰しているからこそ、蒸気が外に押し出され、やかんから離れるにつれて白い湯気となります。この様子が、集団としての生徒の活動の様子に重なって感じられるのです。白く見える湯気は表彰者（A）で、もうひと頑張りで表彰されたであろう生徒がB、やかんの中で大勢の生徒（C）が沸騰しているからこそその現象なのではないかと思えます。やかん本体の内部が沸騰しているのであれば、蒸気となって噴き出す水の分子はどの分子であっても不思議ではありません。多くの生徒にチャンスはあるのです。また、湯気の量も増えることでしょう。



個人の場合だけでなく、チームの場合でも同じです。運動部であれば、部員一人一人の自覚があつて全体として頑張っているチームだから、選ばれて出場した選手が優れた実績を収めるのです。どの運動部も互いに切磋琢磨して学校全体で頑張っているときは、実績の上がる部も増えてきます。

夏休みの半ばから第2学期早々にかけて、少年の主張大会、合唱・合奏のコンクール、英語弁論大会等々と校外行事が続きました。まだお知らせしていないことも多く、次号以下でお知らせいたします。その際に、ここに書いた内容を考えてお読みいただきたいと思います。

蛇足ですが・・・



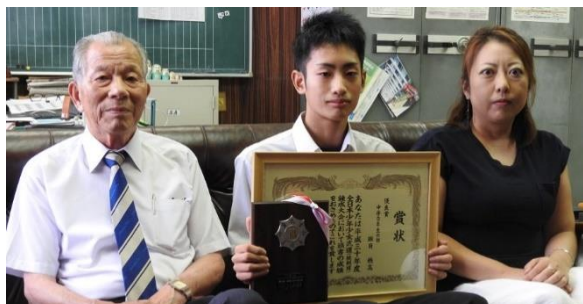
昨年度の本紙第32号に「集団の質が個人の成長に与える影響が大」という見出しの文章を掲載しました。

先生方の多くが、「みんなが頑張ろう」という雰囲気クラスでは、もうひと頑張りの生徒たちがみんな合格するという経験をしているという内容でした。ある3年生の担任の先生は、「『受験勉強は個人戦じゃない』」

という話をしました。」と言っていました。考え方は、上に述べたやかんの話と同じです。

そこで、3年生に向けた蛇足です。専修学校や私立高校の推薦入試が始まると、次々に友達の進路が決まっていきます。湯気が多くなるとやかんの中の水が減っていきます。たとえ最後の一人となろうとも、やかんの中に残る冷え切った水滴になってはいけません。自分が進みたいと思った進路に対する熱を最後まで持ち続けなければ、湯気となって飛び出すことはできません。他の同級生よりも先に進路が決まって湯気となった生徒は、やかんを温める側に回ってほしいと考えます。先生方とともに「一人残らず（全員の）進路決定」を合言葉に、学級の人間関係と授業を温め続けられるよう、保護者の皆様にもお力添えをお願いします。

全日本少年少女武道錬成大会で 3年斑目くん銃剣道で全国2位



8月1日（水）、日本武道館で開催された標記大会で、昨年の中川くん（29年度卒業）に引き続き3年 斑目穂高くんが銃剣道の部で第2位に輝きました。昨年同様、指導者の中川正純氏とお母さんと一緒に校長室に報告に来てくれました。

斑目家では、お父さんとお姉さんも銃剣道と短



剣道に汗を流しているそうで、おそらくお父さんは剣を交えた後、二人と杯を傾ける日が来るのを楽しみにしているのではないかと想像し、うらやましくなりました。

ことばの力（番外編）

子どもの声に耳を澄ませてください

プレッシャーをかけすぎると、子どもは疲れてしまう
 厳しいルールを押し付けられれば、子どもはルールを破る方法を探す
 好き勝手をさせると、子どもは人の気持ちに鈍感になる
 失敗を繰り返すと、子どもは自信を失う
 約束を破られると、子どもは失望を味わう
 否定されると、子どもは苦しむ
 ひとりの人間として大切にされれば、子どもは思いやりのある人間になる
 親を信頼できる子どもは、本当のことを話してくれる
 おおらかな家庭に育てば、子どもは考える力をはぐくむ
 先のことを考えて行動できれば、自分の行くべき道ができる
 責任感を育てれば、子どもは自分で考えて行動できるようになる
 親が身体にいい習慣を持っていれば、子どもは自分の身体を大切にする
 支えてあげれば、子どもは自分に自信を持つようになる
 表現できる場を持てば、子どもは本当の自分を出せる
 愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
 子どもを信じて見守れば、子どもはより良い世界を目指して歩いていける

「10代の子どもが育つ魔法の言葉」（ドロシー・ノルト著 PHP文庫）より

自分の10代を振り返って、このとおりなんだろうなあと納得してしまいます。また、父親として子育ての時期を終え、申し訳ないような気持ちになります。

皆様のご家庭には、PTAで配布した「家庭教育10の誓い」が貼ってありますか。上の言葉を「家庭教育10の誓い」のお伴にいただければ幸いです。



全職員で救急救命法を学ぶ

夏休みに入ってからすぐの7月25日（水）、須賀川消防署の内藤裕介氏を講師、息子さんの大地くん（本校2年）をアシスタントに迎え、AEDの操作を含む救急救命法講習を行いました。なんと途中から非番の署員さん2名も駆けつけてくれたのには感激してしまいました。

私たち教職員も（高校体験入学の引率等で都合のつかなかった職員も若干名）教員だけでなく、事務職員や給食の調理員まで全員参加で積極的に実技に取り組みました。

緊急対応の際は、「施設設備も技術も使える状態でなければならぬ」と肝に銘じ、これからも準備に万全を期してまいります。

